

文化庁委託事業

令和 5 年度

劇場・音楽堂等基盤整備事業

地域別劇場・音楽堂等職員舞台技術研修会
実施報告書



公益社団法人全国公立文化施設協会

地域別劇場・音楽堂等職員舞台技術研修会（東北地域）

| 実施要項 | |
|-------------------|----------------------------------------------------------------------------------|
| 事業名 | 令和5年度文化庁委託事業地域別劇場・音楽堂等職員舞台技術研修会（東北地域） |
| 趣旨 | 劇場・音楽堂等の舞台技術等を管理、運営している職員を対象とし、舞台技術に関する専門的な研修を行うことにより地域の文化芸術の振興と劇場・音楽堂等の活性化に資する。 |
| 開催期間 | 令和6年3月12日（火） |
| 会場 | オンライン配信 |
| 問合せ先 (事務局担当施設) | あきた芸術劇場ミルハス 電話 018-838-5822 新庄市民文化会館 電話 0233-22-7029 |
| 参加人数 | 46名（参加施設 26施設） |

| 研修日程・内容 | | | |
|-------------|-----------------|---------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|
| 日時 | 内容 | 講師 | |
| 3/12 (火) | 13:30 | 開会 | |
| | 13:30 | 技術部会長挨拶 | あきた芸術劇場ミルハス 館長 進藤 裕人 氏 |
| | 13:31~ 16:00 | 講義 神奈川芸術文化財団の取り組み 1. 鑑賞サービスとは 2. 字幕サービス 3. 音声補聴サービス 4. 音声ガイドサービス | (公財)神奈川芸術文化財団 KAAT 神奈川芸術劇場 副館長 堀内 正人 氏 舞台技術課 平井 徹 氏 |
| | | 休憩 | (一社)日本障害者舞台芸術協働機構 代表理事 南部 充央 氏 |
| | | 5. 鼎談 「舞台技術者が鑑賞サービスを考える」 | |

研修会記録

1 はじめに

この研修会は、劇場・音楽堂の舞台技術等を管理、運営している職員を対象とし、舞台技術に関する専門的な研修を行うことにより地域の文化芸術の振興と劇場・音楽堂等の活性化に資することを目的としております。

今回は、鑑賞サービスに関して、先進的な取り組みをされておられる「神奈川芸術文化財団」の取り組みおよび日本障害者舞台芸術協働機構代表理事の南部充央様による鑑賞サービスの概要と現状をお話しいただき、これからの時代劇場の管理運営に携わる者には必須の知識である「舞台技術と鑑賞サービスの関係」についての研修を実施しました。

2 研修内容

挨拶 神奈川芸術文化財団の鑑賞サービスへの取り組み

講師 堀内 真人 氏（公益財団法人神奈川芸術文化財団 KAAT 神奈川芸術劇場 副館長）

堀内氏が所属する、神奈川県横浜市で3館を運営管理する財団の「鑑賞サービス」への取り組みを紹介。これまでの実績とそこから湧き上がってくる課題等を示された。

講義 1~4

講師 南部 充央 氏（一般社団法人日本障害者舞台芸術協働機構 代表理事）

はじめに、「鑑賞サービス」の基本的な考え方や対象ごとのアプローチ方法や舞台技術の具体的な設備機器を紹介していただいた。

また、「字幕サービス」「音声補助サービス」「音声ガイドサービス」それぞれの分野での課題やその対処方法を、実際の事例等をもとに説明していただいた。

講義 5 鼎談「舞台技術者が鑑賞サービスを考える」

講師 堀内 真人 氏（公益財団法人神奈川芸術文化財団 KAAT 神奈川芸術劇場 副館長）

平井 徹 氏（公益財団法人神奈川芸術文化財団 KAAT 神奈川芸術劇場 舞台技術課）

南部 充央 氏（一般社団法人日本障害者舞台芸術協働機構 代表理事）

堀内氏、南部氏及び平井氏による、「舞台技術と鑑賞サービスの現状と課題」について、それぞれの立場から論点ごとに意見交換をされた他、障害・世代などをこえてあらゆる人が

安心して音楽や演劇等楽しめる、リラックス・パフォーマンスの実現可能性にも言及された。



堀内 正人 氏



平井 徹 氏



南部 充央 氏

3 研修を終えて

① 事業評価

各参加館に対し、オンライン研修後、アンケート調査を行った。ご参加いただいた皆様の反応も良く一定の成果が得られたと思います。

② 当研修会の意義

今回のテーマは、主として障害者への芸術鑑賞サービスの推進方法についての内容でしたが、特に高齢化が進んでいる東北地域にとっては、非常に現実的なテーマ設定であったと思います。それをすでに実施されている神奈川芸術文化財団の実例と、鑑賞サービスの将来の

在り方を追求・指導されている南部氏の講義は同じ舞台芸術に取り組む受講者にとって、改めてその必要性や重要性を感じる有意義な研修内容でした。

③今後の課題について

今回の研修会は、舞台技術のスキルアップを図るという側面はあるものの、今後の文化施設への来場者に対する芸術鑑賞サービスの在り方を問うものであったと思います。すべての来場者に同じように舞台芸術の楽しさを味わっていただくという、専門性の高いテーマ設定の研修会となりましたが、このテーマはどの職種の職員であっても対応を考えなければいけない内容です。

したがって、今後とも舞台技術に関する研修ではあるものの、職員なら誰でも受講できる内容のテーマを選定すべきと考えます。

地域別劇場・音楽堂等職員舞台技術研修会（関東甲信越静地域）

| 実施要項 | |
|-------------------|----------------------------------------------------------------------------------|
| 事業名 | 令和5年度文化庁委託事業地域別劇場・音楽堂等職員舞台技術研修会（関東甲信越静地域） |
| 趣旨 | 劇場・音楽堂の舞台技術等を管理、運営している職員を対象とし、舞台技術に関する専門的な研修を行うことにより地域の文化芸術の振興と劇場・音楽堂等の活性化に資する。 |
| 開催期間 | 令和6年2月19日（月） |
| 会場 | 静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ 所在地 〒422-8019 静岡県静岡市駿河区東静岡二丁目3番1号 電話 054-203-5710 |
| 問合せ先 （事務局担当施設） | 静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ 電話 054-203-5710 |
| 参加人数 | 83名（参加施設 31施設） |

| 研修日程・内容 | | |
|-------------|-----------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日時 | 内容 | 講師 |
| 2/19 （月） | 【パネルディスカッション】 音響反射板の効果的な利用について | パネリスト レコーディングディレクター/大阪芸術大学客員教授 坂元 勇仁 氏 ヴァイオリニスト/（一社）アンサンブル・ノマド マネージャー 花田 和加子 氏 静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ 元ホールマネージャー/株式会社ステージ・ループ 押田 章 氏 |
| | 実演検証 ～二重唱を例に～ | 坂元 勇仁 氏 花田 和加子 氏 押田 章 氏 実演奏者 ・佐藤 愛也 氏（ソプラノ） ・梅原 光洋 氏（テノール） ・小澤 実々子 氏（ピアノ） |

研修会記録

1 はじめに

劇場内に設置されている音響反射板について公演制作者、ステージマネージャー、そして実演家のそれぞれの立場から、より良い音をお客様に届けるための効果的な方法を考えた。前半は前記三者により、各々の役割や視点からホールという限られた空間、環境の中でどのようなことが出来るか、またどのような環境を作りたいかをパネルディスカッション形式で意見交換を行った。後半は実演家による演奏を交え、奏者の配置や反響板の角度、足元の材を変えるなどして、響きの変化をその場で体感しながら実演検証を行った。

2 研修内容

パネルディスカッション 「音響反射板の効果的な利用について」

パネリスト 坂元 勇仁 氏（有限会社ユージンプランニング代表取締役、大阪芸術大学客員教授）

花田 和加子 氏（ヴァイオリニスト/一般社団法人アンサンブル・ノマド マネージャー）

押田 章 氏（静岡県コンベンションアーツセンターグランシップ 元ホールマネージャー/株式会社ステージ・ループ）

内 容 各々の立場からホールの特性や響きを味方につけるために行っている方法を共有し、感じていることを意見交換した。より良い音をお客様に届けるために共同できることを検討した。坂元氏進行のもと、個々の立場から感じることや過去の経験事例などを紹介した。



坂元勇仁氏、花田和加子氏、押田章氏

実演検証 ～二重唱を例に～

講師 坂元 勇仁 氏 (有限会社ユージンプランニング代表取締役/大阪芸術大学客員教授)

花田 和加子 氏 (ヴァイオリニスト/一般社団法人アンサンブル・ノマド マネージャー)

押田 章 氏 (静岡県コンベンションアーツセンターグランシップ 元ホールマネージャー/株式会社ステージ・ループ)

演奏者 佐藤 愛也 氏 (ソプラノ)

梅原 光洋 氏 (テノール)

小澤 実々子 氏 (ピアノ)

内容 演奏家を交えながら実演にて実験を行った。各声部のソロ、二重唱、ピアノソロの3パターンを演奏者や楽器(ピアノ)の立ち位置・配置、足材を変えることで音の響きにどのように影響するのか、耳で体感する場とした。研修の最後には実験を加味した配置で演奏も行った。



実演検証－1



実演検証－2



実演検証－3

① 事業評価

実演検証をしながらより良い環境を探すという答えのないテーマであったが、アンケートの総体的な評価は「満足」が69%、「やや満足」が19%、併せて役立ち度に対し「なる」73%という評価を得ることが出来た。「立ち位置の違いによる響きの変化を比較しながら確認できた。管理担当としても演者の質問に答えられるよう、全館の響きを再確認したい。」「正解はないという事がわかってより良い形にするための答えの出し方を教えていただいた感じが腑に落ちた。」「経験豊富な演奏者と技術者双方の立場からのリアルな意見を聞くことができて良かった。実演では細かくピアノ・声楽・アンサンブルのそれぞれのポジションの響きを確認でき、また良し悪しではなく、どう活かすのか？という考え方がとても参考になった。」と好評な評価を得ることができた。

② 当研修会の意義

すでに設置されている音響反射板をいかに効果的に活かすことができるか、また各自が勤務するホールはどのような特性があるか、改めて見つめなおす場となった。実践的な内容をメインに取り上げたことで、勤務するホールの客席で音を聴いたことがない職員もいるといった話題もあったことから、参加者それぞれが自館に持ち帰りそのホールの活かし方を考える場を提供することができた。

③ 今後の課題について

正解がないテーマだからこそ、その場で音を出してみないとわからないため、レジュメ等の資料を用意することが難しかった。アンケートより「音響設計の専門家の意見も希望する。」との声もあったため、明確な答えは提示しなくとも、視覚的なデータがあると数字上の結果と体感した結果を比べることができ、なお良かったのではと感じる。

地域別劇場・音楽堂等職員舞台技術研修会（東海北陸地域）

| 実施要項 | |
|-------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業名 | 令和5年度文化庁委託事業地域別劇場・音楽堂等職員舞台技術研修会（九州地域） |
| 趣旨 | 劇場・音楽堂等の活性化、地域の文化芸術の振興等を目的としたアートマネジメントや劇場・音楽堂等の舞台技術を統括管理するために必要な専門的知識・技術の取得に関する研修会を実施し、専門性の向上と劇場・音楽堂等の活性化を図る。 舞台技術研修会については、各地域において、劇場・音楽堂等を管理している職員を対象とし、舞台技術に関する専門的な研修を行うことにより、地域の文化芸術の振興と劇場・音楽堂等の活性化に資する。 |
| 開催期間 | 令和6年1月24日（水）～1月25日（木） |
| 会場 | 不二羽島文化センター 所在地 〒501-6244 岐阜県羽島市竹鼻町丸の内 6-7 電話 058-393-2231 |
| 問合せ先 (事務局担当施設) | 愛知県芸術劇場 電話 052-971-5609 |
| 参加人数 | -名（参加施設 -施設） |

| 研修日程・内容 | | | |
|-------------|-----------------|-----------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|
| 日時 | 内容 | 講師 | |
| 1/24 (水) | 13:00～ 13:20 | 受付 | |
| | 13:20～ 13:30 | 開講式 | |
| | 13:30～ 15:00 | 研修会Ⅰ 基調講演「エンターテインメント・アート+テクノロジー」 | (一社)アート東京 代表理事 來住 尚彦 氏 |
| | 9:30～ 9:50 | 受付 | |
| | 9:50～ 10:50 | 研修会Ⅲ 実技Ⅰ「1.ドローンを知る」「2.電波機器としてのドローンの使用上の注意」 | 來住 尚彦 氏 Be-U (株) 代表取締役 高橋 賢太 氏 Be-U (株) サウンドエンジニア 澤口 敬一 氏 |
| | 10:50～ 11:05 | 休憩 | |
| | 11:05～ 13:15 | 研修会Ⅳ 実技Ⅱ「3.ドローンの飛行・撮影の実施」 | 來住 尚彦 氏 高橋 賢太 氏 澤口 敬一 氏 |
| | 13:15～ 13:30 | 閉講式 | |

地域別劇場・音楽堂等職員舞台技術研修会（中四国地域）

| 実施要項 | |
|-------------------|---------------------------------------------------------------------------------|
| 事業名 | 令和5年度文化庁委託事業地域別劇場・音楽堂等職員舞台技術研修会（中四国地域） |
| 趣旨 | 劇場・音楽堂の舞台技術等を管理、運営している職員を対象とし、舞台技術に関する専門的な研修を行うことにより地域の文化芸術の振興と劇場・音楽堂等の活性化に資する。 |
| 開催期間 | 令和6年1月18日（木）～1月19日（金） |
| 会場 | 香川県県民ホール 所在地 〒760-0030 香川県高松市玉藻町9-10 電話 087-823-3131 |
| 問合せ先 (事務局担当施設) | 香川県県民ホール（レクザムホール） 電話 087-823-3131 |
| 参加人数 | 39名（参加施設 25施設） |

| 研修日程・内容 | | | |
|-------------|-----------------|------------------------------|----------------------------------------------------------|
| 日時 | 内容 | 講師 | |
| 1/18 (木) | 14:00～ 14:10 | 開講式 | |
| | 14:10～ 15:40 | 講義Ⅰ 「音響・映像・映像配信・照明・安全管理」① | ファシリテーター： (株)四国舞台テレビ照明 久川 俊英 氏 |
| | 15:40～ 16:00 | 休憩 | 講師： (株)ヤマハミュージックジャパン 三星 龍生 氏 |
| | 16:00～ 17:00 | 講義Ⅱ 「音響・映像・映像配信・照明・安全管理」② | ヤマハサウンドシステム(株) 兼子 伸一郎 氏 松村電機製作所(株) 赤瀬 浩尚 氏 |
| | 17:00～ 17:30 | 大ホール見学 | |
| 1/19 (金) | 10:00～ 11:30 | 講義Ⅲ 「大規模改修」 | ファシリテーター： 久川 俊英 氏 講師： (株)シアターワークショップ 伊東 正示 氏 |
| | 11:30 | 閉講式 | |

研修会記録

1 はじめに

各地域において、劇場・音楽堂等の舞台技術を統括管理するために必要な専門的知識や技術の習得を図るため、舞台技術者を対象とした舞台技術研修会を実施する。

2 研修内容

講義Ⅰ・Ⅱ「音響・映像・映像配信・照明・安全管理」

ファシリテーター 久川 俊英 氏（株式会社四国舞台テレビ照明）

講師 三星 龍生 氏（株式会社ヤマハミュージックジャパン）

兼子 紳一郎 氏（ヤマハサウンドシステム株式会社）

赤瀬 浩尚 氏（松村電機製作所株式会社）

- ・デジタル化に伴う機器の操作方法やアナログとは違う注意点及びホールの整備状況について
- ・SRにおけるイマーシブサウンド技術
- ・録音技術（音響反射板設置の有無）
- ・デジタル卓の一般的な操作方法、デジタル特有の注意点、整備状況
- ・ウォール SP の活用、セット中への SP の仕込み
- ・一般的な配信方法や工夫点、整備状況
- ・施設での対応範囲
- ・VP の明るさ、機能、配線
- ・LED 化に関して、初期不良や職員の理解不足によるトラブル対策
- ・LED とハロゲンの使い分け
- ・法令遵守に関連する舞台で必要な技能、安全管理体制や有効対策の実例紹介
- ・技術者の服装、高所作業
- ・「文化施設職員のための安全・技術講座」
- ・「劇場技術者のための用語の解説」

講義Ⅲ「大規模改修」

ファシリテーター 久川 俊英 氏（株式会社四国舞台テレビ照明）

講師 伊東 正示 氏（株式会社シアターワークショップ）

- ・長寿命化計画の実践と課題、大規模改修と建て替えの選択

3 研修を終えて

①事業評価

- ・講義テーマ1一つに詳しく説明する時間を取ったほうが良い。
- ・投影資料は手元にあったほうが講義に集中できる。

②当研修会の意義

- ・舞台技術さんが多くいらっしゃるので、出展頂いた最新機器などは、特に興味を持たれていました。
- ・新しく法改正やルールが変わったことなどの情報は、皆さん関心を持っているようでした。

③今後の課題について

- ・舞台での苦勞や工夫の話など近しい状況をテーマにしてみる。
- ・開催館のホール案内ツアーなどがあったほうが喜ばれるかもしれません。
- ・会場は会議室を利用したが、ホールを利用したほうが、雰囲気が出たかもしれません。

地域別劇場・音楽堂等職員舞台技術研修会（九州地域）

| 実施要項 | |
|-------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業名 | 令和5年度文化庁委託事業地域別劇場・音楽堂等職員舞台技術研修会（九州地域） |
| 趣旨 | 劇場・音楽堂の舞台技術等を管理、運営している職員を対象とし、舞台技術に関する専門的知識・技術の取得に係る研修を行うことにより、専門性の向上と劇場・音楽堂等の活性化に資する。 |
| 開催期間 | 令和5年12月12日（火）～12月13日（水） |
| 会場 | 鹿児島県文化センター（宝山ホール） 所在地 〒892-0816 鹿児島県鹿児島市山下町 5-3 電話 099-223-4221 |
| 問合せ先 （事務局担当施設） | 鹿児島県文化センター（宝山ホール） 電話 099-223-4221 |
| 参加人数 | 39名（参加施設 19施設） |

| 研修日程・内容 | | | |
|--------------|---------------------|-------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日時 | 内容 | 講師 | |
| 12/12 （火） | 13:05 ～ 13:15 | 開講式 | |
| | 13:15 ～ 14:00 | プログラムⅠ ヤマハ推奨のピアノ管理（メンテナンス）についての解説 | (株)ヤマハミュージックジャパン カスタマーサポート部 ピアノ技術サービス課 鈴木 義武 氏 高橋 慎太郎 氏 (株)十字屋 田代 昭浩 氏 |
| | 14:15 ～ 15:00 | プログラムⅡ 実際のピアノを使用し、ステージ上に集まって運搬や手入れ、付随した多少のピアノの構造・調律などの解説 | |
| | 15:50 ～ 16:50 | プログラムⅢ 質疑応答 | |
| 12/13 （水） | 9:45 ～ 11:45 | プログラムⅣ 「劇場・音楽堂における改修計画について」～持続可能なホールの管理計画～ | (公社)全国公立文化施設協会アドバイザー 草加 叔也 氏 |
| | 11:45 ～ 12:00 | 閉講式 | |

研修会記録

1 はじめに

1 日目でのプログラムでは、グローバル楽器市場で No.1 のシェアを誇るヤマハから講師を招き、施設のピアノの保管方法、日々の管理、定期的なメンテナンスなど、各施設が抱えている疑問を解き明かし、ピアノの取扱いに関する知識を高める。

2 日目のプログラムでは、昨今の物価高の影響で必要十分な予算確保が困難になり、より一層「長寿命化」の取組が進む公立文化施設で「予防保全」の考えを元に計画改修することや「事後保全」の考えを元に最低限度の状態を維持するための改修をメインに学ぶ。

2 研修内容

プログラムⅠ「ヤマハ推奨のピアノ管理（メンテナンス）についての解説」

講師 鈴木 義武 氏（株式会社ヤマハミュージックジャパン カスタマーサポート部 ピアノ技術サービス課）

高橋 慎太郎 氏（株式会社ヤマハミュージックジャパン カスタマーサポート部
ピアノ技術サービス課）

田代 昭浩 氏（株式会社十字屋）

公共文化施設によく設置されている楽器としてピアノがある。特にフルコンサートピアノは非常に高価で、その施設の顔となる楽器である。本プログラムではピアノの基本的構造を写真のような模型を使いながら学び、また、温度・湿度を考えた適切な管理方法等について学んだ。



プログラムⅠ

プログラムⅡ 「実際のピアノを使用し、ステージ上に集まって運搬や手入れ、付随した多くのピアノの構造・調律などの解説」

講師 鈴木 義武 氏（株式会社ヤマハミュージックジャパン カスタマーサポート部 ピアノ技術サービス課）

高橋 慎太郎 氏（株式会社ヤマハミュージックジャパン カスタマーサポート部
ピアノ技術サービス課）

田代 昭浩 氏（株式会社十字屋）

プログラム1から継続した内容の講義で、ピアノの管理方法や運搬について、受講者全員を舞台上げ、より具体的に分かりやすく解説していただいた。

運搬については、ピアノの鍵盤がある面を正面に向かって（写真のような講師・鈴木氏の立ち位置）左側の方が重いため、運搬車の位置を考えながら行わなければならないことなどをご教示いただいた。



プログラムII

プログラムIII「質疑応答」

講師 鈴木 義武 氏（株式会社ヤマハミュージックジャパン カスタマーサポート部 ピアノ技術サービス課）
高橋 慎太郎 氏（株式会社ヤマハミュージックジャパン カスタマーサポート部 ピアノ技術サービス課）
田代 昭浩 氏（株式会社十字屋）

質問内容としては、内部奏法の依頼を受けた場合の対応やオーバーホールの見極め時期についてなどがあつた。ピアノ所有者と定期的に調律していただいている方との間で話し合い、決めて欲しいとのことだった。特に内部奏法については、所有館独自のルールを決めておくの良いとのアドバイスもあった。



プログラムIII

プログラムIV「劇場・音楽堂における改修計画について～持続可能なホールの管理計画～」

講師 草加 叔也 氏（岡山芸術創造劇場 劇場長/空間創造研究所 取締役/公益社団法人全国公立文化施設協会 アドバイザー）

劇場・音楽堂の改修における長期計画の必要性について講義を行っていただいた。施設の設備・機器は経年劣化、機能劣化、性能劣化に伴い様々な改修が必要であり、多額の費用と長期休館による施設利用料金の減額が伴うが、劣化を防ぎ、安全を確保するためには早目の計画・実施が必要である。また、建物に係る費



プログラムIV

用については、建設費ばかりが注目されるが、運用費や保全費（維持費）といった費用の割合の方が圧倒的に高いことから、これらの費用を賄うための予算措置の必要性についても、設置者である自治体と運営者（指定管理者等）が連携・協議していくことの重要性を説明された。

3 研修を終えて

①事業評価

参加者は舞台技術専門でベテランの方が多く印象を受けた。講義内容はピアノに特化したプログラムであったが、総合的な評価としてはアンケート提出者の大部分は「満足」「やや満足」であった。舞台技術とは少し離れた内容にもかかわらず、自由記述欄では肯定的な意見が多かった。

②当研修会の意義

1日目のプログラムは参加されたほとんどの館が所有・保管しているであろうピアノについて研修を行った。研修内容を各館持ち帰り、職員間で情報共有することでピアノのトラブル回避に繋がればと思う。

2日目のプログラムについて、設置者（自治体）にとっては多額の費用（予算）を要することから、積極的な改修がなされていないところがほとんどであると思われる。本プログラムは各施設運営者から設置者（自治体）に対して提案できる材料となればと考えている。

③今後の課題について

講師の皆様と参加者のご協力もあり、有意義な研修会となった。ただ、参加者が例年少ないため、時期をずらして実施することも検討すべきと考える。